

第3回森町総合計画審議会 次第

日時：令和8年3月27日(金) 15:00～

場所：森町町民生活センター2階 集会室

1 開 会

2 町長あいさつ

3 議事

(1) 第10次森町総合計画基本構想(案)について

資料1

(2) 第10次森町総合計画「基本構想」答申(案)について

資料2

(3) 令和8年度策定スケジュール(案)について

資料3

4 その他

5 閉 会

第 10 次森町総合計画 (案)

【目次】

序論	1
第 1 章 計画策定にあたって	1
(1) 策定の目的.....	1
(2) 計画の構成と期間.....	2
第 2 章 計画策定の背景	3
(1) 社会状況.....	3
(2) 森町の現状.....	5
(3) 町民の声.....	8
(4) 森町の強みと課題.....	15
基本構想	16
第 1 章 計画において大切にすること	16
(1) 総合計画における視点.....	16
(2) 未来につなぐdX.....	17
第 2 章 まちの将来像.....	19
(1) 基本理念.....	19
(2) 将来像.....	19
(3) 基本の柱.....	19

※赤枠内:議決対象

※基本計画等に係る部分については、今後記載予定

第1章 計画策定にあたって

(1) 策定の目的

本町は、平成29(2017)年に令和7(2025)年度を目標年次とする第9次森町総合計画において、「住む人も訪れる人も『心とらぐ森町』」を将来像に掲げ、その実現に向けてまちづくりを進めてきました。

この間、我が国の社会状況は、人口減少や人口構造の変化、人々のライフスタイルや価値観の多様化、デジタル技術の進展など大きく変化しています。特に地方においては、少子高齢化や産業の衰退、担い手不足など、多岐にわたる課題が相互に絡み合いながら進行し、これらの状況への対応が求められています。こうした状況において、「地方創生2.0基本構想」が示しているように、人口減少が進む中であっても、性別や世代を問わず、楽しく、安心・安全に暮らせる持続可能な社会を創っていくことが地方自治体には求められるようになっていきます。

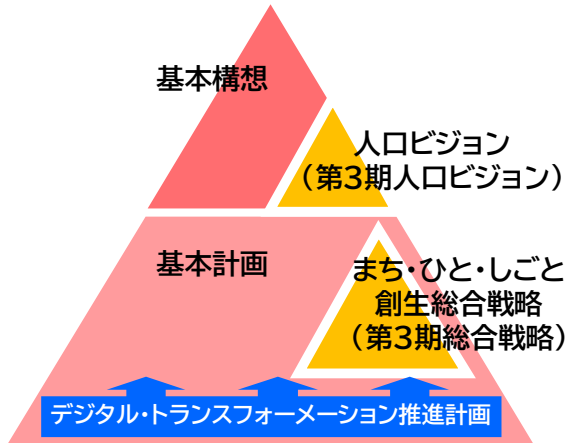
そのような中で、近年、まちづくりにおいて「ウェルビーイング」という概念が注目されています。ウェルビーイングとは、住民の幸福度の向上を目指す考え方であり、幸福度とは、経済的な豊かさだけでなく、生活の質や心の豊かさを重視する考え方と言われます。ウェルビーイングの向上に向けたまちづくりの推進に向けては、町民や企業、大学、行政などの多様な関係者と新たなまちの価値を共に創り上げていく「共創」が重要となります。

こうした状況を踏まえて、時代の変化に柔軟に対応し、ウェルビーイング(幸福度)の考え方を取り入れながら、これからのまちづくりにおいて目指す姿と進むべき道筋を明らかにするための町政の中長期的な指針となる「第10次森町総合計画」を策定します。

(2) 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」及び「基本計画」で構成します。なお、本町が推進するまちづくり全体の一体性と実行性を高めるため、地方創生を目的とした「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」とデジタルの力も用いて町の変革を進める「デジタル・トランスフォーメーション推進計画」を一体の計画として策定します。

【計画の構成】



■ 基本構想

まちづくりの「基本理念」と目指すべきまちの「将来像」、それを実現するための各分野のまちづくりの方向性を示す「基本の柱」などを定めます。

■ 人口ビジョン

人口の現状分析を踏まえ、令和 42(2060)年度までを対象期間とした人口の長期的展望を示します。

■ 基本計画

基本構想に掲げる基本理念、まちの将来像、基本の柱を実現するための主要な施策と施策の方向性を体系的に示します。

■ デジタル・トランスフォーメーション推進計画

基本計画に示す施策の推進をデジタル技術が下支えするため、基本計画の分野ごとにデジタル施策の方向性を示します。

■ まち・ひと・しごと創生総合戦略

人口の長期的展望に基づき、人口減少社会の中で地域の自立かつ持続的な活性化を図るための地方創生を目的とした施策を基本計画の中に示します。

※総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の「地方創生に関する総合戦略」を勘案して作成するものです。

【計画の期間】



第2章 計画策定の背景

(1) 社会状況

第9次森町総合計画策定以降、森町を取り巻く社会の状況は大きく変化しており、これらの変化を踏まえてこれからのまちづくりを進めることが求められます。

① 人口減少・人口構造の変化

我が国の総人口は減少を続け、令和52(2070)年には9,000万人を下回り、高齢化率は約4割になると推計されています[※]。特に地方を中心に想定を超える人口及び生産年齢人口の減少や高齢化の進展が顕著となっており、今後、買い物や医療・福祉、交通、教育等の生活サービス機能の低下や、消費の減少を通じて地域経済の縮小をもたらすことが懸念されています。

こうした中で、人口規模が縮小しても地域の活力を維持・向上させる取組を推進することにより、住民が豊かに安心して暮らせるまちを実現していくことが求められます。

[※] 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(令和5年推計)の出生中位・死亡中位仮定に基づく推計結果に基づく。

② 異常気象・災害の激甚化などの自然環境の変化

我が国の年平均気温の上昇は世界平均よりも早く進行しており、大雨や短時間強雨の発生頻度も増加し、全国各地で被害が発生しています。また、高温による農作物の生育障害や品質低下など、気候変動の影響は様々な地域・分野に及んでいます。令和2(2020)年、国は令和32(2050)年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。脱炭素社会の構築に向け、グリーントランスフォーメーション(GX)[※]の実現に資する取組をさらに加速化させていくことが必要となっています。

さらに、近年、全国各地で地震や津波、風水害、土砂災害等の自然災害が多発しています。今後は、気候変動の影響による風水害、土砂災害の激甚化・頻発化に加え、南海トラフ巨大地震等の巨大地震の発生も懸念されます。住民、企業、行政等が一体となって災害に強いまちづくりを進めることが求められます。

[※] 「脱炭素成長型経済構造移行推進戦略(GX推進戦略)(令和5年7月28日閣議決定)」において、GXについて「産業革命以来の化石エネルギー中心の産業構造・社会構造をクリーンエネルギー中心へ転換する」と記述されている。

③ ライフスタイルや価値観の多様化

テレワークを基本とした勤務形態の普及や二地域居住・地方移住への関心の高まりなどにより、働き方・住まい方に大きな変化が見られ、今後もより一層多様化が進展していくものと予想されています。

人々の価値観についても、物の豊かさよりも、これからは心の豊かさに重きをおきたいと思う人が増えています。

人々の多様なライフスタイルや価値観、ニーズが尊重され、誰もが幸せに暮らせるまちを形成していくことが求められます。

④ デジタル技術の飛躍的な進歩と社会生活の変容

通信環境の高度化とスマートフォンの普及を背景に、買い物、学び、働き方、医療・行政手続など生活の多くがオンラインとデータ活用を前提に再編されつつあります。近年はAI技術の進歩により、人とAIが協働することによる省力化や高付加価値化が広がり、サービス提供の在り方にも変化が生じています。

利用者起点でのサービス設計、データ連携の推進、遠隔での支援や移動負担の軽減、地域資源の見える化などを進めるとともに、個人情報の適正な取扱い、セキュリティ確保、情報の信頼性確保、利用環境やリテラシーの差への配慮などがますます重視されます。また、利便性と包摂性(誰も取り残さない視点)、効率性と信頼性を両立させたデジタル活用により、持続可能な地域社会づくりを進めることが求められます。

⑤ 広域連携や共創のまちづくりの必要性の高まり

人口減少と人口構造の変化が進む中、地域の担い手確保や行政サービスの維持が全国的な課題となっています。こうした状況に対応し、持続可能な行政運営を進めていくためには、自治体間で連携し、効果的かつ効率的に施策を推進する広域連携の重要性が高まっています。

また、地域の課題が多様化、複合化する中、行政のみで課題に対応していくことは一層難しくなっています。このため、住民や事業者、団体、大学等の多様な主体と連携し、対話をしながら解決策の検討や取組の展開を図ることにより、新たなまちの価値を共に創り上げていく「共創」のまちづくりが必要とされています。

これらの取組を通じて、人口減少下においても持続可能な行政運営を進めていくことが求められます。

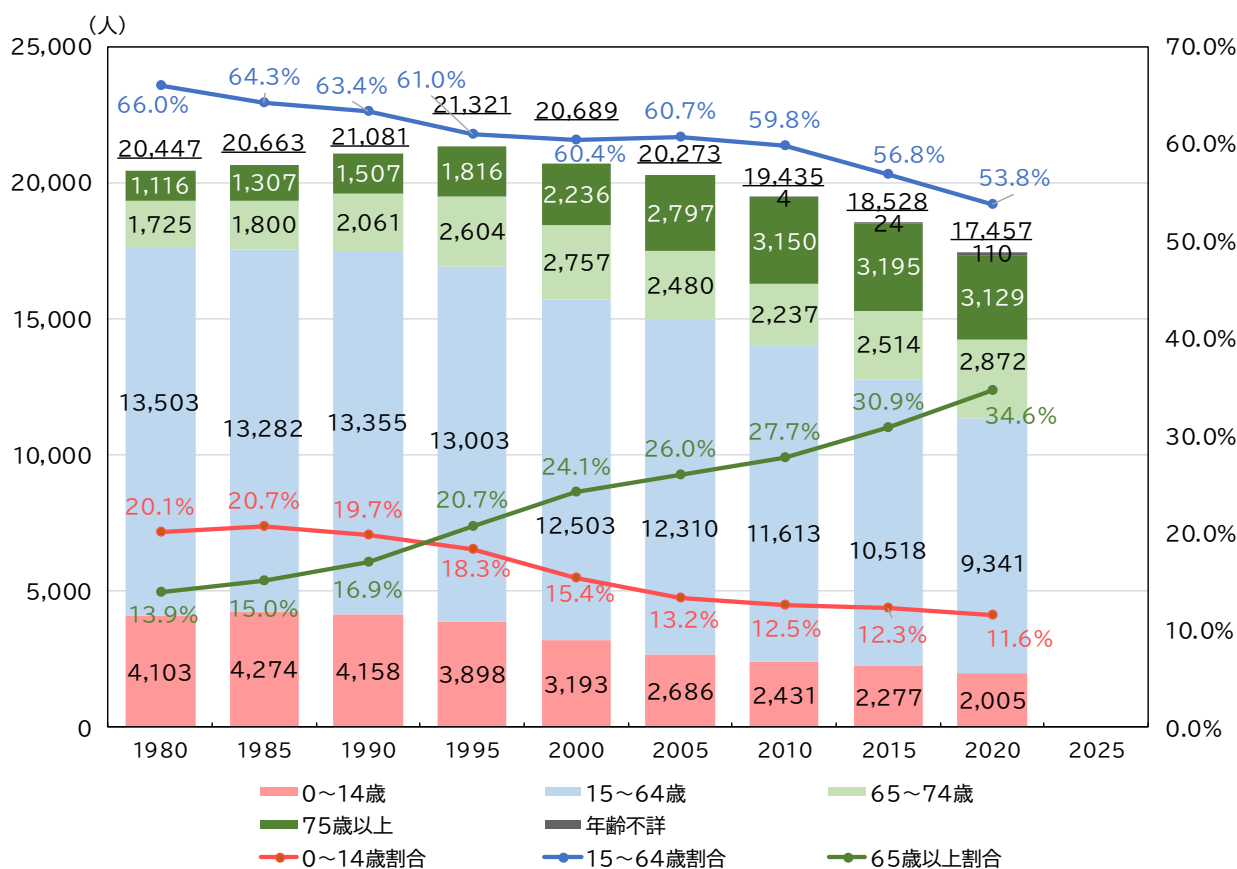
(2) 森町の現状

人口、産業、地域の概況について、本町の現状を示します。

① 人口の状況

本町の総人口は、平成7(1995)年をピークに減少しており、令和2(2020)年で17,457人となっています。

年齢区分別人口割合の推移では、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)が減少し、老年人口(65歳以上)が増加する傾向にあります。75歳以上人口は平成27(2015)年まで増加傾向にあり、令和2(2020)年に減少していますが、人口の約2割を占めています。



資料:国勢調査

※令和7年国勢調査結果が公表され次第、2025年の数値を挿入
 ※年齢区分別人口割合の算出には、分母から年齢不詳を除いている

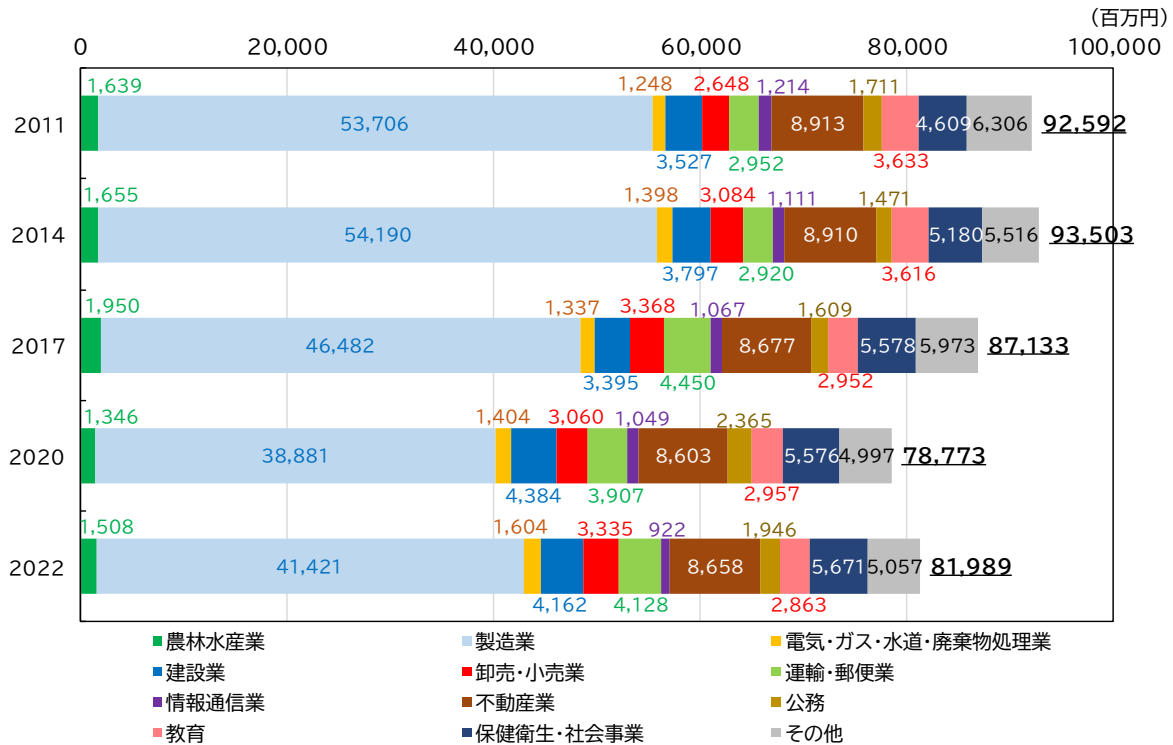
◆森町にとっての課題◆

本町では人口減少が本格的に進んでおり、人口減少のスピードを緩和させることや、地域コミュニティの維持、町民の暮らしやすさの維持・向上を図る取組、少子高齢化の進展に対応した取組を進めていくことが必要です。

② 産業の状況

本町の総生産※は、平成 26(2014)年以降、減少傾向にあり、町内総生産の約半数を占める製造業や、不動産業、農林水産業などにおいて減少が見られますが、令和4(2022)年にいずれも増加に転じています。

※ 1年間に、地域内で新たに生み出された付加価値の総額のこと。



※下線の数字は経済活動別総生産の合計
(総生産は輸入品に課される税・関税を加算し、総資本形成に係る消費税を控除した額のため、内訳の合計とは一致しない)

※しずおかけんの地域経済計算が更新され次第、2022年の結果を2023年に更新(令和8年3月公表予定)

資料: 令和4年度しずおかけんの地域経済計算

◆森町にとっての課題◆

農林業、商工業のバランスのとれた維持・発展を図り、地場産業が活性化するまちづくりを進めていく必要があります。

③ 地域の概況

本町は総面積の72%を森林が占め、町の中央には清流・太田川が流れるなど豊かな自然環境に恵まれています。茶・米・とうもろこし・レタス・柿・メロンなど特産品も豊富です。また、「遠州の小京都」といわれる風情ある町並みや、遠江国一宮として崇敬をうけた古代の森と謳われる小國神社に代表される神社、史跡などの歴史・文化資源も多く分布しています。



◆森町にとっての課題◆

自然、歴史・文化といった森町ならではの地域資源をいかし、観光振興や賑わい創出が図れるまちづくりを進めていく必要があります。

(3) 町民の声

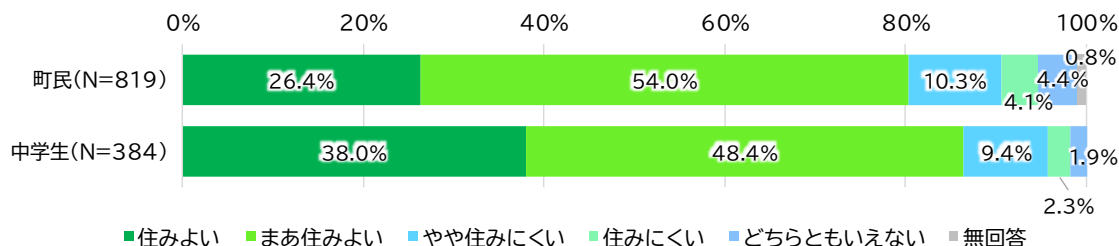
第10次森町総合計画策定にあたって、町民の皆さんや森町に関わる方々のご意見をお聴きし、計画検討の一助とするため、各種調査を実施しました。

① アンケート調査

	町民アンケート	中学生アンケート
調査対象	森町在住の15歳以上(高校1年生以上)の町民を対象に2,000人を無作為抽出	森中学校、旭が丘中学校の1年生～3年生の全生徒 407人(R7.5.1時点)
調査方法	郵送配布、郵送またはWEB回収	WEB回答
調査期間	令和7年8月26日(火)～9月12日(金)	令和7年7月2日(水)～7月17日(木)
回収状況	有効回収数 819 件 回収率 41.0% うち郵送回収666件、WEB回収153件	有効回収数384件 有効回収率94.3%

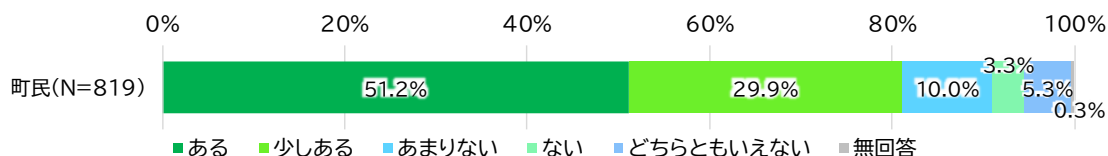
■ 森町の住みよさ

町民アンケート結果・中学生アンケート結果ともに8割以上が「住みよい(住みよい+まあ住みよい)」と回答しています。



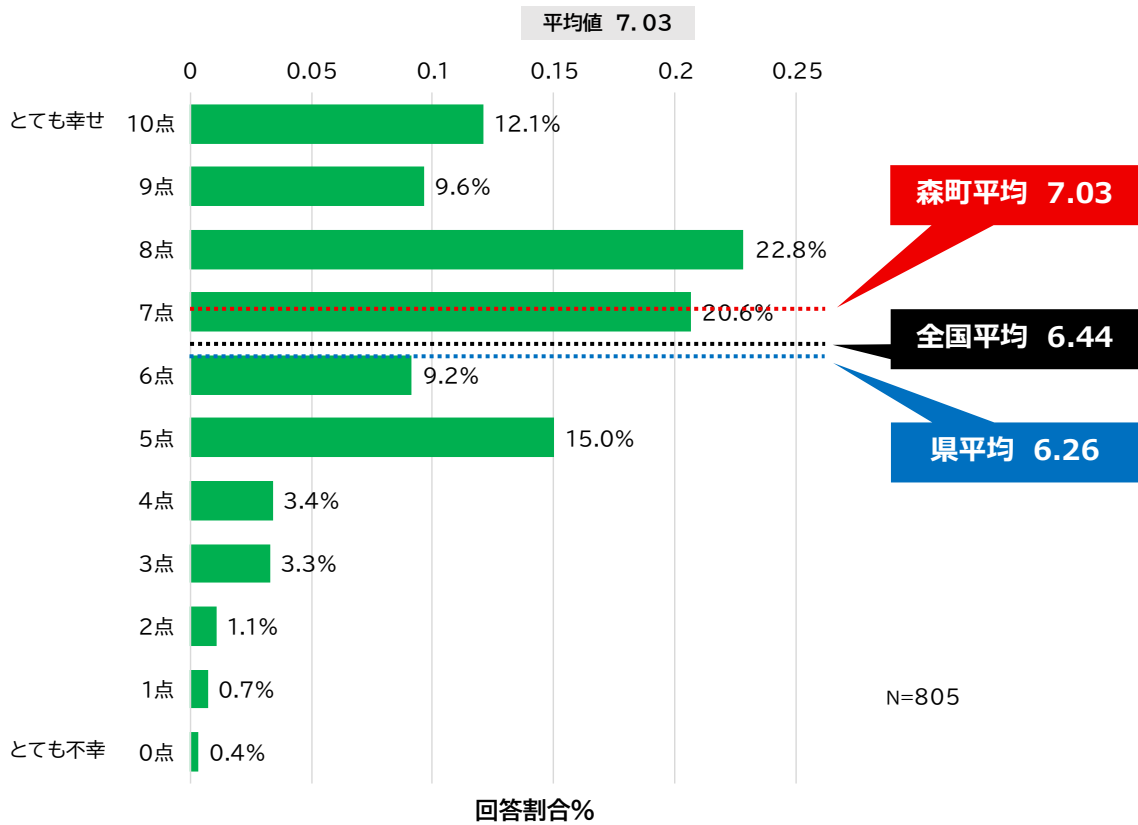
■ まちへの愛着

町民アンケート結果の約8割が森町に「愛着がある(ある+少しある)」と回答しています。



■ 現在の幸福度

町民アンケート結果の平均幸福度は7.03点と全国平均(6.44点)や静岡県平均(6.26点)よりも高くなっています。

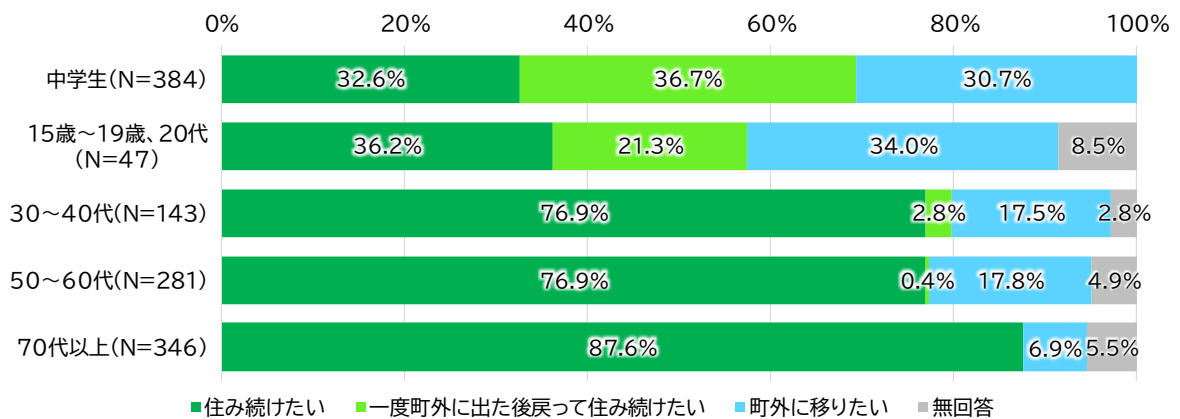


※全国平均、静岡県平均は令和7年度調査

■ 定住意向

町民アンケート結果では30代以上の約8割、中学生の約7割が森町に「住み続けたい」と回答しています。

一方、中学生を含めた20代以下の約3割が「町外に移りたい」と回答しています。



■ これからの森町がめざすべき姿

【町民アンケート 主な意見】

～目指すべきと思うまちのイメージや、森町にふさわしいと思う町のキャッチフレーズ～

◆誰にとっても住みやすい、やさしいまち

- 住民一人ひとりを大切に、外から来る人にも温かいアットホームなまち
- 小さくても誇れる“ちょうどいい田舎”で、ずっと住み続けたい・帰って来たいと感じられるまち

◆自然を守りいかすまち

- 山・川・森林・清流・星空など豊かな自然景観の保全・再生
- 自然体験・エコツーリズム・再生可能エネルギーなど、自然と共生したまち

◆子育て世代、高齢者に手厚いまち

- 保育・教育・医療体制の充実、送迎・買い物等の移動支援
- 子どもから高齢者まで安心して暮らせる仕組み(世代間交流も含む)

◆経済・産業・商業が元気なまち

◆人口減少に対応したコンパクトシティ／持続可能なまち

◆交流・観光・イベントで活気を生むまち

◆安全・安心、健康なまち

◆歴史・文化・伝統を大切にするまち など

【中学生アンケート 主な意見】～10年後の森町が「こんなまちになっていたらいいな」～

◆誰もが安心・安全で住みやすいまち

- 子どもから高齢者、障がいのある人や外国人まで暮らしやすい
- 犯罪や事故・災害が少なく、治安が良い／登下校や夜道も安心
- 公共施設・交通網が整い、快適に生活できる

◆自然を守りながら暮らせるまち

- 森・川・田畑など豊かな自然環境を今のまま、あるいはもっと増やしたい
- ポイ捨てゼロ、環境保全を重視／自然と共存した都市機能
- 美味しい水・お茶・農産物など“自然の恵み”を大切にしたい

◆お店や公共サービスが充実した“便利”なまち

- 商業施設や公共交通が増えて買い物等がしやすいまち
- 働く場所や産業も発展し、遠くまで行かなくても何でもそろうまち

◆行事・イベント・伝統文化が盛んなまち

- 祭り・花火大会・森の祭りなど伝統行事を残し、さらに活性化
- 世代を超えて参加できる地域イベントやスポーツ大会を増やす
- 観光客にPRし、町外・県外から人が訪れる魅力をつくる

◆活気と賑わいがあるまち

◆人と人がやさしくつながるコミュニティ

◆スポーツ・健康を推進するまち

◆自慢・魅力を発信できるまち など

② 森町を語る会

町内6地区の住民の皆さんを対象として、「みんなで考えよう 未来の森町」をテーマとした意見交換を令和7年11月に地区ごとに開催しました。

【主な意見】

◆みんなで考えよう未来の森町

- 森町のイメージは観光施設(小國神社・大洞院・アクティ森)と農産物(お茶・トウモロコシ・柿)であり、これらは将来も町の重要な柱になると思う。
- 祭りは町民の楽しみであり重要な伝統文化。人口減少で維持が困難になっているが、祭り好きな人を呼び込み、定住・移住につなげるなど、積極的な取組が進むとよい。
- 塩の道の活用も含め、自転車のまちとして10年で発展させたい。
- 農業離れで耕作放棄地が増加している。家庭菜園や二拠点居住者向けに貸し出す仕組みなどができるとうい。
- 人口減少はまちの大きな課題であり、若者流出の対策として、企業誘致や雇用創出を進めることで定住促進を図ってはどうか。
- 町内会や自主防災会で防災訓練を行っているが、消防団員減少や訓練のマンネリ化、避難所運営の課題など、地域の防災力に不安を感じている。
- 「森町らしさをいかしたまちづくり」を進める上で、最も重要なのは地域力の強化だと思う。 など

③ まちづくり検討会

町内でまちづくりに携わる個人・団体等を対象として、「10年後のまちの目指す姿」や「その実現に必要な取組」などについてワークショップ形式で議論をする「まちづくり検討会」を開催しました。令和7年度に3回(実施済)、令和8年度に2回の実施を予定しています。

【まちづくり検討会(第1回・第2回)の主な意見】

◆町民にとって幸せな暮らしとは?(世代別)

- 【こども】 学校が楽しい、祭りが楽しい、家族の笑顔、遊び場が充実、地域とのつながりがある など
- 【若者】 就職先がある、治安が良く安心 など
- 【子育て・働き盛り世代】 自由に働ける(子育て支援の充実)、買い物がしやすい、森町病院が近い など
- 【高齢者】 コミュニティ(人とのつながり)、森町病院が近い など

◆森町ならではの幸せな暮らしとは?

- 豊かな自然、景色、祭り、歴史文化
- 森町が好きという思い
- 森町病院が近くにあり健康に暮らせる
- つながりを感じられる、地域との交流がある
- ☆買い物、飲食、職、遊び場、バスが増える
- ☆自然災害に強い 等

○:森町にあるもので、今後もあり続けてほしいと思うこと
☆:今後こうなったらいいと思うこと

④ ウェルビーイングアンケート結果

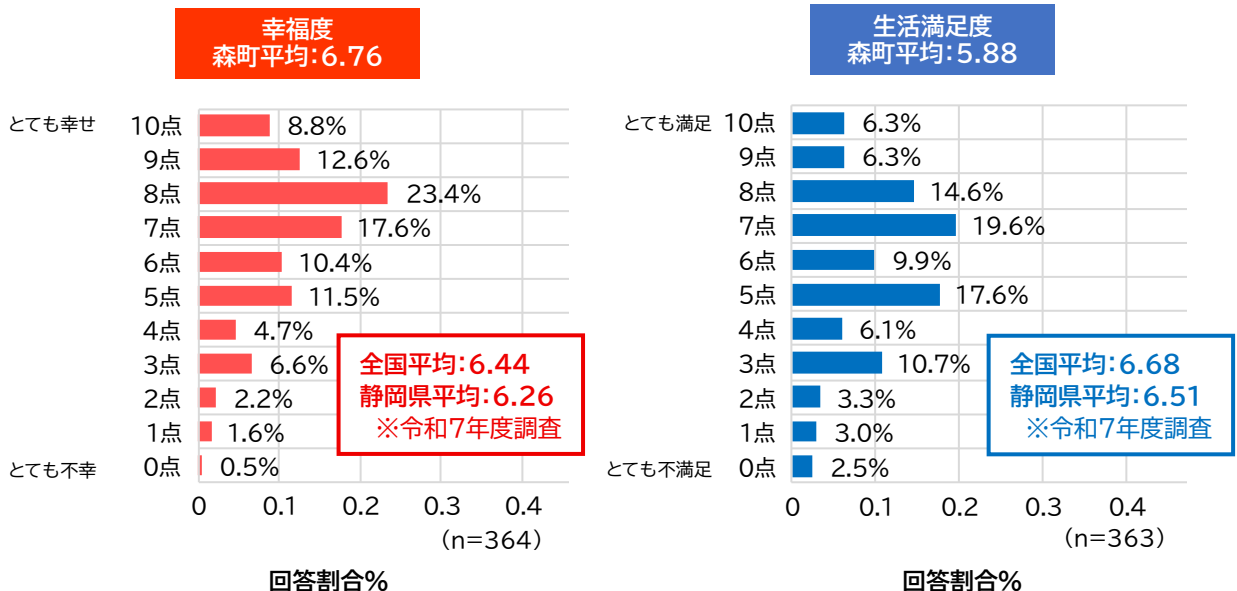
町民の皆さんの幸福度や生活満足度などを把握するため、デジタル庁の「地域幸福度(ウェルビーイング)指標アンケート」を活用してアンケートを実施しました。

森町地域幸福度(Well-Being)アンケート	
調査対象	町民一般
調査方法	Web調査(町民アンケート実施時や森町を語る会参加者、町広報、町HP、町公式LINE等で協力を広く呼びかけ)
調査期間	令和7年8月27日(水)～12月5日(金)
回収状況	有効回収数365件

■ 幸福度(左)と生活満足度(右)

幸福度について見ると、森町の幸福度平均は6.76点と全国平均や静岡県平均よりも高くなっています。

生活満足度について見ると、森町的生活満足度は5.88点と全国平均や静岡県平均よりも低くなっています。年代別では30代、40代で生活満足度に対する評価が低くなっています。また、本町的生活環境等に対する実感を尋ねた設問では、「遊び・娯楽」、「移動・交通」、「雇用・所得」等の評価点が特に低く、これらへの対応により、生活満足度の向上を図っていくことが大きな課題となっています。



資料: 2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

※幸福度は、町民アンケート調査(郵送配布、郵送またはWEB回収)でも把握しています。9ページを参照ください。

⑤ AIを活用したオンラインワークショップ

職員対象

森町職員を対象として、オンライン上で意見を交わし、AIが活発な意見交換がなされるように支援する、「オンラインワークショップ」を実施しました。

AIを活用したオンラインワークショップ	
調査対象	森町職員
調査方法	オンラインプラットフォーム「D-Agree」を活用して、ユーザー登録し意見を投稿
調査期間	令和7年9月22日(月)～10月15日(水)
テーマ	今後10年間、森町のまちづくりにおいて必要なこと
意見数等	総投稿数102件(うちAIファシリテーションを除く:77件) 新規登録者数:67名、閲覧者60名、投稿者数:26名

【主な意見】

◆今後10年間、森町のまちづくりにおいて必要なこと

【産業振興】

○企業誘致や工業団地の面的整備を進め、働く場を増やし、安定した財源を確保する。

【移住・定住】

○若年層が住み続けやすい新築・築浅の賃貸や分譲地を充実させ、空き家の解消と併せて住環境を整える。

【教育・文化】

○学校再編を通学手段の改善とセットで進め、安心できる学びの環境を確保する。
○幼稚園のこども園化など、子育て支援と時代に合った教育体制を構築する。
○自然環境・歴史文化を次世代へ継承するため、活動の記録化や世代横断の仕組みを整える。

【交流拠点・情報発信】

○目的や地域特性に応じて、公園や遊び場のコンセプトを明確にし、日常と休日の両方で選ばれる場をつくる。天候に左右されず安全に遊べる室内型の遊び場の整備。
○映える要素や情報発信を工夫し、町外から人が訪れるきっかけを増やす。

【地域防災】

○公共施設の老朽化に向き合い、更新・統合・廃止を含めた最適化と着実な合意形成。
○避難所としての機能を高めるため、エアコンや通信環境など災害対応力を強化する。

【医療】

○公立森町病院を含む地域医療の持続可能な体制を検討し、将来も安心して暮らせる医療環境を確保する。

【公共交通】

○高齢者や車を運転しない人も移動しやすい、小回りの利く公共交通を整備する。

【行政運営】

○業務量の可視化や業務仕分けを行い、効率化と組織改革をすすめ、職員が余裕を持って住民サービスに向き合える環境をつくる。 など

町民等対象

森町に住んでいる方、通勤・通学している方、森町に関わりのある方を対象として、「未来の森町に必要なこと」をテーマに「オンラインワークショップ」を実施しました。

AIを活用したオンラインワークショップ	
調査対象	森町に住んでいる方、通勤・通学している方、森町に関わりのある方
調査方法	オンラインプラットフォーム「D-Agree」を活用して、対象者にユーザー登録していただき、意見を投稿いただいた (森町を語る会参加者、町広報、町HP、公式LINE等で協力を広く呼びかけ)
調査期間	令和7年11月20日(木)～令和8年1月31日(土)
テーマ	未来の森町に必要なこと
意見数等	総投稿数 61 件(うち AI ファシリテーションを除く:45件) 新規登録者数:38名、閲覧者:44名、投稿者数:18名

【主な意見】

◆未来の森町に必要なこと

【産業振興】

- 新東名 IC という強みをいかした戦略的な企業誘致の推進。
- 行政と民間が連携し、民間活力を取り込んだ誘致の仕組みを整備する。
- 「さわやか」など目的来訪を促す企業(店舗)誘致。
- とうもろこし等の農業の強みを、機械化やデータ活用で次世代につなげる。

【移住・定住】

- 子育て世代が暮らしやすい住環境・仕事・支援制度・遊び場を総合的に整える。
- 家族が安心して長時間過ごせる大規模公園や屋内遊び場の整備。
- 公園や遊び場の充実により町外への流出を防ぎ、地域内での消費を増やす工夫。
- 町内会・消防団・祭典などの役割負担を透明化・軽減した若い世代が定住しやすい環境づくり。

【教育】

- 教育環境の改善や図書館の夜間利用、学校統廃合の早期検討など、学びの基盤整備。

【観光振興】

- 自然・歴史資源をいかした滞在時間を延ばす体験型観光の充実。

【情報発信】

- SNS やデジタル発信力を高め、若年層に届くプロモーションの強化。

【地域防災】

- 防災体制の強化として、避難所単位の役員(女性比率向上)、要援護者情報の適切な共有、OB 人材台帳、訓練の定例化、災害対策本部の拠点再検討(アリーナ等、交替制・仮眠スペースの確保)。
- 外国人受け入れには、ルール尊重・安全確保を前提とした明確な方針整備。 など

(4) 森町の強みと課題

社会状況や町の現状、町民の声、そして、これまでの町のなりたちや取組等を踏まえ、本町の強みとこれからのまちづくりの課題を整理します。

■ 森町の強み(森町の特性、地域資源)

●豊かな自然環境や歴史・伝統文化

- ・ 町域の7割を占める森林、清流・太田川など、緑と水に恵まれた自然環境、四季折々の美しさ
- ・ 「遠州の小京都」と称される町並み、神社仏閣、伝統ある舞楽や祭り

写真

●多彩で高品質な特産品

- ・ 農業が盛んで、茶・米・とうもろこし・レタス・柿・メロン等の農産物が豊か
- ・ 町産農産物等を使った和菓子や加工品も豊富

写真

●交通アクセスの良さ

- ・ 町内に2つのICを持ち、東名高速道路の袋井ICとも近接する物流ポテンシャルの高さ
- ・ 交通網の充実から、輸送用機器産業等の製造業も盛ん
- ・ 町内に5つの駅を有し、新幹線駅へのアクセスの良さ

写真

●良好な地域の人間関係

- ・ 町に愛着をもっている町民が多く、その多くが「人間関係の良さ」や「人や地域とのつながり」を感じている

●心とらぐ環境、新たな取組の推進

- ・ 豊かな自然環境や歴史・伝統文化に育まれた環境は、住む人、訪れる人に「心の癒し」をもたらしている
- ・ 町の地域資源をいかし、「PASのふるさと森町」、「eBikeのふるさと森町」、自転車を活用した取組を推進

写真

■ 森町のまちづくりの課題

- 町民の「生活満足度」の維持・向上が図れるまちづくり(地域コミュニティの維持、公共交通や生活利便性の向上、余暇を楽しめる場の充実、雇用の充実 等)
- 安全・安心に暮らせるまちづくり(自然災害に強い地域づくり 等)
- 若者・女性、子育て世代に選ばれるまちづくり(自然環境等の良さの発信、教育の充実、雇用の充実、U・Iターン、移住・定住促進 等)
- 活気があり、産業の振興が図れるまちづくり(多彩で高品質な特産品の活用、交通アクセスの良さをいかした産業拠点の形成 等)
- 豊かな地域資源をいかした観光振興や賑わい創出が図れるまちづくり(「遠州の小京都」のまちづくりの推進、「自転車のまち」の推進 等)

第1章 計画において大切にすること

(1) 総合計画における視点

① ウェルビーイング(幸福度)の考え方を取り入れたまちづくり

人口減少が進む中であっても、性別や世代を問わず、町民一人ひとりが豊かさ、安心・安全、自分らしさ等を実感し、幸福度の高いまちづくりを進めることを基本とします。

その実行性を高めるために、地域の課題やニーズを十分に把握し、町民の視点に立って、暮らしやすさを実感できる取組を着実に推進します。また、取組を推進する上では、町民や多様な主体と共に取り組む「共創」のまちづくりを基本とします。

【ウェルビーイングとは】

ウェルビーイングは「良好な状態」を意味し、身体的、精神的、社会的に満たされた状態が続いていくことを指します。

経済的な豊かさだけでなく、生活の質や心の豊かさを重視する考え方です。



② 社会情勢の急速な変化に対応した持続可能なまちづくり

町を取り巻く環境は急速に変化しており、今後も大きな変化の中で、町が抱える課題がより複雑化・多様化することが予想されます。

このような変化に対応するため、町民の声やデータに基づき、現状と変化の兆しを的確に捉え、限られた資源の価値を高め、長期的な視点で戦略的に配分することで、将来にわたって町民が心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりを推進します。

③ 森町らしさをいかしたまちづくり

まちの魅力を再認識し、その価値を高めていくことがこれまで以上に重要となっています。森町が将来にわたって選ばれ続けるまちであるためには、森町ならではの特色をいかしていくことが必要です。

このため、森町の特性・地域資源をいかし、まちの魅力を一層高めて広げる取組や、町民や森町に関わる人がまちに愛着や誇りを持てるまちづくりへの取組、町民や民間事業者等と連携によるまちの活性化に向けた取組を通じて、森町らしさをいかしたまちづくりを進めることを基本とします。

(2) 未来につなぐdX

① 森町におけるデジタル・トランスフォーメーションの捉え方

森町では、デジタル・トランスフォーメーションを次のように捉えています。

将来にわたって地域での幸せな暮らしを守り続けるために
地域全体が、デジタル技術も活用して、
住民本位の行政・地域社会を再デザインするプロセス



デジタル・トランスフォーメーションの略称は一般的に「DX」と表されるが、「D」(デジタル技術)ありきではなく、「X」(変革)を重視していることから、「d」を小文字、「X」を大文字で表現

社会情勢が急速に変化する中であっても、森町が大切にしてきた自然環境や歴史・文化、産業、地域のつながりといった地域資源を守り、次世代に継承していくためには、変革が必要です。dXは、これまで培ってきたものをないがしろにするのではなく、むしろそれらを守り育てるための取組です。デジタル技術も、人も、仕組みも一緒に進化していくことで、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていきます。

この取組の根底には、「住民本位」、つまり「人中心」の考え方があります。デジタル技術のヒト・モノ・コトをつなぐ力も活用しながら、広域的な視点で多様な主体と共創を進め、新たな未来を創っていきます。

② 森町におけるdXの進め方

第10次森町総合計画に掲げる将来像の実現を下支えするのがdXであるという考え方の下、各領域で変革を進めます。

また、まず町職員がdXを推進する上での価値観として、以下に示す「dX推進の指針」を全庁的に共有し、実践していきます。そして、取組を進める中で、関係団体や近隣自治体、町民や町内の事業者へと次第に広がり、地域全体で共有される基本的な指針となることを目指します。

【森町におけるdX】

行政運営のdX

ムリ・ムダ・ムラを無くして、
ずっと頼れる行政を作ろう

人口減少の中でも、
限られた職員数や予算を
最大限に活用し、行政が時代に
合わせた役割を發揮する。

行政サービスのdX

みんなの”ちよどいい“を
実現しよう

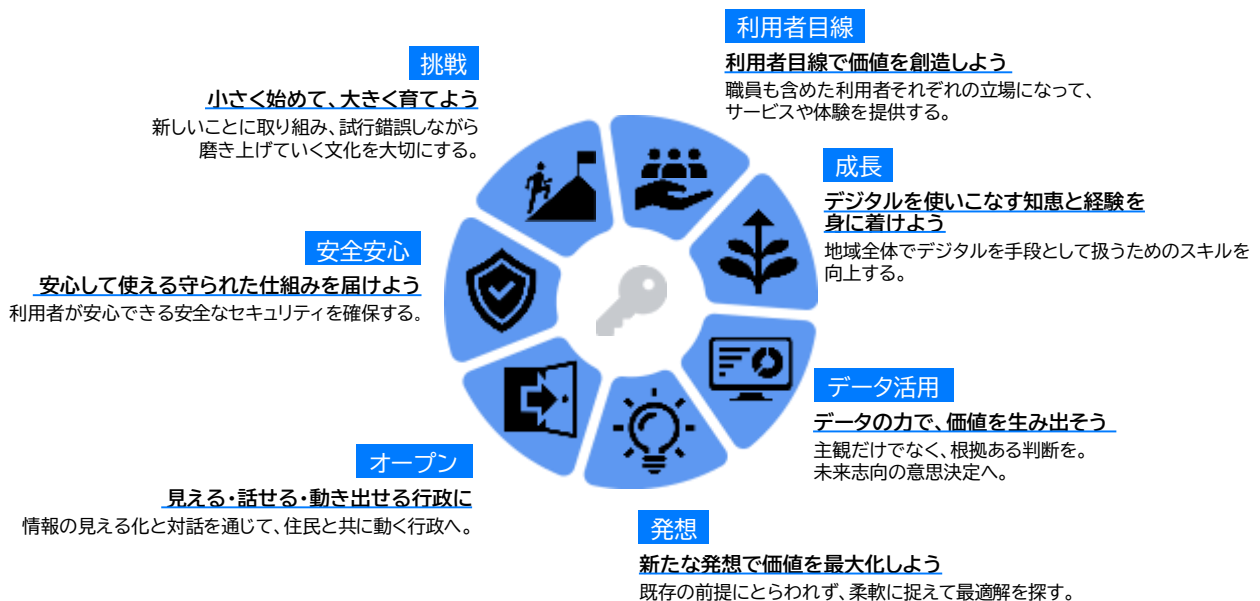
迅速さときめ細やかさを
両立する、より身近な
行政サービスで、一人ひとりに
寄り添う。

地域社会のdX

新たな組み合わせで
地域の”困った”を乗り越えよう

周辺自治体、民間企業、
地域住民との共創による
新たな発想で、地域資源も
活用しながら、
地域の課題を解決する。

【dX推進の指針】



第2章 まちの将来像

(1) 基本理念

第10次森町総合計画が目指すまちづくりの基本的な考え方として、次の基本理念を定めます。

- I 「人とのつながり」: 森町に住む人、訪れる人、事業者、行政など、森町に関わる多様な主体が、「人とのつながり」によって、幸福度の高い持続可能なまちづくりを推進します。
- II 「地域とのつながり」: 地域の多彩な資源や個性をいかして、「地域とのつながり」を大切にします。まちの魅力をより一層高め、森町らしさをいかした持続可能なまちづくりを推進します。
- III 「時とのつながり」: 豊かな自然環境や景観、歴史、伝統文化など、これまで培ってきた「時とのつながり」を大切に、新たな価値を加えることで、将来に向けて持続可能なまちづくりを推進します。

(2) 将来像

3つの基本理念を踏まえ、森町が目指す将来像を次のとおり定めます。

つながりと愛着を持ち 共に創る森町

この将来像に向かって、人口減少・少子高齢化社会の中においても、豊かな自然環境や歴史・伝統文化、多彩で高品質な特産品などの森町の良さをいかし、新たな価値を加えて、活気やにぎわいあふれる、幸福(しあわせ)を実感できる持続可能なまちづくりに取り組みます。

住む人や訪れる人、森町に関わる人が、森町に愛着を持ち、「人・地域・時」のつながりの中で、共に知恵を出し合い、共に手を取り合い、共に新たな未来を創っていきます。

(3) 基本の柱

基本理念・将来像を実現するための各分野のまちづくりの方向性を示す「基本の柱」を次のとおり定めます。

基本の柱1 赤ちゃんから高齢者までだれにもやさしいまち (健康・福祉・医療)

基本の柱2 未来を拓く人を育むまち (教育・文化)

基本の柱3 地域の宝をいかすまち (観光・交流・発信)

基本の柱4 地域産業が元気なまち (産業振興)

基本の柱5 安心して快適な暮らしができるまち (安心・安全)

基本の柱6 豊かな自然環境と共生するまち (自然・環境)

基本理念

I 「人とのつながり」

森町に住む人、訪れる人、事業者、行政など、森町に関わる多様な主体が、「人とのつながり」により、幸福度の高い持続可能なまちづくりを推進します。

II 「地域とのつながり」

地域の多彩な資源や個性をいかし、「地域とのつながり」を大切にします。まちの魅力をより一層高め、森町らしさをいかした持続可能なまちづくりを推進します。

III 「時とのつながり」

豊かな自然環境や景観、歴史・伝統文化など、これまで培ってきた「時とのつながり」を大切にし、新たな価値を加えることにより、将来に向けて持続可能なまちづくりを推進します。

将来像

つながりと愛着を持ち 共に創る森町

この将来像に向かって、人口減少・少子高齢化社会の中においても、豊かな自然環境や歴史・伝統文化、多彩で高品質な特産品などの森町の良さをいかし、新たな価値を加えて、活気やにぎわいあふれる、幸福（しあわせ）を実感できる持続可能なまちづくりに取り組みます。

住む人や訪れる人、森町に関わる人が、森町に愛着を持ち、「人・地域・時」のつながりの中で、共に知恵を出し合い、共に手を取り合い、共に新たな未来を創っていきます。

基本の柱

基本の柱 1	基本の柱 2	基本の柱 3	基本の柱 4	基本の柱 5	基本の柱 6
赤ちゃんから高齢者までだれにもやさしいまち	未来を拓く人を育むまち	地域の宝をいかすまち	地域産業が元気なまち	安心して快適な暮らしができるまち	豊かな自然環境と共生するまち
(健康・福祉・医療)	(教育・文化)	(観光・交流・発信)	(産業振興)	(安心・安全)	(自然・環境)

第10次森町総合計画の策定について

【計画策定にあたっての基本方針】(第1回会議資料1より)

基本方針③ 簡潔で分かりやすい計画とする

- 文章量はできる限り抑え、要点が端的に伝わるシンプルで読みやすい構成・内容とし、詳細な基礎データや調査結果、補足説明等は資料編に整理する。
- 計画全体において類似する記述が複数箇所に重複しないようにするとともに、基本計画においては「基本の柱」が目指す姿や現状と課題、取組、指標等を集約して示すことで、全体像を把握しやすい計画とする。

【目次(案)】

序論

- 第1章 計画策定にあたって
 - (1) 策定の目的
 - (2) 計画の構成と期間
- 第2章 計画策定の背景
 - (1) 社会状況
 - (2) 森町の現状と課題
 - (3) 町民の声

基本構想

- 第1章 計画において大切にすること
 - (1) 総合計画における視点
 - (2) 未来につなぐdX
- 第2章 まちの将来像
 - (1) 基本理念
 - (2) 将来像
 - (3) 基本の柱

人口ビジョン

- 第1章 人口の現状分析
- 第2章 人口の将来展望

基本計画

基本計画の見方

基本の柱1 赤ちゃんから高齢者までだれにもやさしいまち(健康・福祉・医療)

◆基本の柱の目指す姿 ※この基本の柱で目指すことをデジタルの要素も入れて記載

取組分野1 (例)子育て支援(分野名で記載)

—【現状と課題】

—【取組の方向性】

—【取組】

	取組名	取組内容	総合戦略
1			○
2			
3			○
4			

—【指標】

指標名	現状値	目標値(令和12年)

—【関連計画】

—【SDGs アイコン表記】

※取組分野2以降、同様の体裁で記載

基本の柱2 未来を拓く人を育むまち(教育・文化)

基本の柱3 地域の宝をいかすまち(観光・交流・発信)

基本の柱4 地域産業が元気なまち(産業振興)

基本の柱5 安心して快適な暮らしができるまち(安心・安全)

基本の柱6 豊かな自然環境と共生するまち(自然・環境)

第3期森町まち・ひと・しごと創生総合戦略 ※取組分野で「○」とした取組一覧を記載予定

資料編

策定体制、諮問・答申、基礎調査やアンケートなど各種調査結果など

第10次森町総合計画策定に向けた基礎調査結果（概要版）

町の概況（統計データ等の分析結果）

- 人口は減少している（直近5年間で年平均250人減少）
- 全国・静岡県平均・近隣自治体と比べて少子高齢化が進行
- 近隣・類似自治体と比較して合計特殊出生率が低い水準、未婚率が高い傾向
- 広域交通網（新東名高速道路 森掛川 IC、遠州森町スマートIC、町内に5つの鉄道駅）が形成されている
- 近隣・類似自治体の中で観光来訪者数が多い

<地域幸福度（ウェルビーイング）客観指標> ※主な結果

偏差値高	<ul style="list-style-type: none"> 拡大家族世帯割合（80.0） 議会選挙の投票率（80.0） <u>居住期間が20年以上の人口割合</u>（78.3） <u>高齢者有業率</u>（75.3） 一戸建の持ち家の割合（73.4）
偏差値低	<ul style="list-style-type: none"> <u>商業施設徒歩圏人口カバー率</u>（20.0） <u>医療施設徒歩圏人口カバー率</u>（25.9） <u>土砂災害危険度</u>（26.8） <u>創業比率</u>（34.1） 正規雇用者比率（37.2）

町民・中学生アンケート

◆森町の強み

- 8割以上がまちに愛着がある（ある+少しある）と回答
- 8割以上が20年以上森町に住み続けていると回答
- 平均幸福度は、全国平均・静岡県平均以上
- 中学生含む7～8割が「住みよい」、「住み続けたい」と回答
 - 山や川などの豊かな自然環境
 - 地域の人間関係がよい
 - 犯罪や事故が少ない
 - 新東名高速道路が通り、広域アクセスがよい

◆森町の課題

- 中学生含む20代以下の約3割が「町外に移りたい」と回答
 - 公共交通の利便性が低い
 - 買い物などの日常生活が不便
 - やりたい仕事が森町にない、できない
 - 余暇を楽しむところが少ない

<重点課題（満足度平均点未満、重要度平均点以上）>

- 企業の誘致・雇用の確保 農業の振興
- 地域資源を生かした観光の振興 河川の整備
- 計画的な土地利用 移住・定住促進
- 道路・交通ネットワークづくり

SWOT分析

<内部環境>		<外部環境>	
<h4>強み</h4> <ul style="list-style-type: none"> 「遠州の小京都」といわれる景観、歴史・文化資源 長年住み続け、まちに愛着のある人が多い 元気な高齢者が多い 豊かな自然環境 多彩で高品質な農作物や特産物 2つのICがあり、利便性が高い広域交通 他自治体に比べ観光来訪者数が多い 等 	<h4>機会</h4> <ul style="list-style-type: none"> 新たな地方創生（地方創生2.0）への展開（人口減少を正面から受け止めた上での施策展開、若者や女性に選ばれるまち 等） 国や静岡県など、ウェルビーイングを重視する社会 新型コロナウイルス感染拡大に伴う、暮らし方・住まい方の変化 インバウンドの回復 DXの推進 等 	<h4>弱み</h4> <ul style="list-style-type: none"> 若年世代を中心とした人口減少、少子高齢化の進行（低い水準の合計特殊出生率、高い未婚率） 産業力の低下 商業施設、医療施設へのアクセスが悪い（利用しづらい生活利便施設） 公共交通の利便性が低い 災害の危険性（土砂災害等） 余暇を楽しむところが少ない 等 	<h4>脅威</h4> <ul style="list-style-type: none"> 全国的な人口減少・少子高齢化 地球環境問題の深刻化 頻発・激甚化する気象災害 巨大地震発生の高まり 刑法犯認知件数の増加、犯罪情勢の変化（インターネット上の犯罪等） 等

基礎調査におけるまちづくりの課題

- 町民にとって暮らしやすさの維持・向上が図れるまちづくり（地域コミュニティの維持、公共交通や生活利便性の向上 等）
- 安全・安心に暮らせるまちづくり（自然災害に強い地域づくり 等）
- 若者・女性、子育て世代に選ばれるまちづくり（強みである豊かな自然環境や住宅環境の良さの町内外への発信、雇用の確保、U・Iターン、移住・定住促進 等）
- 活気があり、産業の振興が図れるまちづくり
- 地域資源を生かした観光振興や賑わい創出が図れるまちづくり 等

社会経済情勢の変化

- 全国的な人口減少・少子高齢化の進展
- 新たな地方創生の展開
- 地球環境問題の深刻化
- 国民の価値観の多様化（ウェルビーイングが高い社会の実現、暮らし方・住まい方の変化）
- 国民の安心・安全意識の高まり（頻発・激甚化する気象災害、巨大地震発生の高まり、犯罪情勢の変化）
- こどもまんなか社会の実現
- デジタル化の進展（DXの推進）

国・県の政策

◆【国】地方創生2.0基本構想（R7.6）

- 目指す姿：「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環が「新しい日本・楽しい日本」を創る
- 「人口減少を正面から受け止めた上での施策展開」、「若者や女性にも選ばれる地域づくり」、「AI・デジタルなどの新技術の徹底活用と社会実装」等を基本姿勢・視点に掲げる

◆【県】静岡県次期総合計画（経営方針等）（R7.3）

- 目指す姿：幸福度日本一の静岡県
- 県民一人ひとりの幸福度を重視する「ウェルビーイングの視点」を県政運営に共通する考えとして取り入れます。オール静岡で幸福度日本一を目指します。

町の計画

◆第9次森町総合計画（H29.3）

- 将来像：住む人も訪れる人も「心とらぐ森町」

◆第2期森町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略（R3.3）

- 人口の将来展望：2060（令和42）年に約13,000人確保
- 基本的な考え方：人が生き・人とふれあい・“森（もりまち）”に暮らす

◆森町DX推進計画（R5.5）

- 将来像：デジタルの力で、もっと人にやさしく心とらぐ森町 等

基本理念・将来像・基本の柱について

基礎調査における森町の特徴と現状

<強み>

- ・「遠州の小京都」といわれる景観、歴史・文化資源
- ・長年住み続け、町に愛着のある人が多い
- ・元気な高齢者が多い
- ・豊かな自然環境
- ・多彩で高品質な農作物や特産物
- ・２つの IC があり、利便性が高い広域交通
- ・他自治体に比べ観光来訪者数が多い 等

<弱み>

- ・若い世代を中心とした人口減少、少子高齢化の進行（低い水準の合計特殊出生率、高い未婚率）
- ・産業力の低下
- ・商業施設、医療施設へのアクセスが悪い（利用しづらい生活利便施設）
- ・公共交通の利便性が低い
- ・災害の危険性（土砂災害等） 等

基礎調査におけるまちづくりの課題

- 町民にとって暮らしやすさの維持・向上が図れるまちづくり（地域コミュニティの維持、公共交通や生活利便性の向上 等）
- 安全・安心に暮らせるまちづくり（自然災害に強い地域づくり 等）
- 若者・女性、子育て世代に選ばれるまちづくり（強みである豊かな自然環境や住宅環境の良さを町内外への発信、雇用の確保、U・Iターンや移住・定住促進 等）
- 活気があり、産業の振興が図れるまちづくり
- 地域資源を生かした観光振興や賑わい創出が図れるまちづくり 等

森町まちづくり検討会（第１回・第２回）

◆町民にとって幸せな暮らしとは？（世代別）

- 【こども】学校が楽しい、祭りが楽しい、家族の笑顔、遊び場が充実、地域とのつながりがある 等
- 【若者】就職先がある、治安が良く安心 等
- 【子育て・働き盛り世代】自由に働ける（子育て支援の充実）、買い物しやすい、森町病院が近い 等
- 【高齢者】コミュニティ（人とのつながり）、森町病院が近い 等

◆森町ならではの幸せな暮らしとは？

- 豊かな自然、景色、祭り、歴史文化
- 森町が好きという思い
- 森町病院が近くにあり健康に暮らせる
- つながりを感じられる、地域との交流がある
- ☆買い物、飲食、職、遊び場、バスが増える
- ☆自然災害に強い 等

○：森町にあるもので、今後もあり続けてほしいと思うこと
☆：今後こうなったらいいなと思うこと

町長インタビュー（R7.7.2）

- ・現行計画の将来像「住む人も訪れる人も『心とらぐ森町』は、これからも目指していくべきものという考えはある。
- ・歴史・伝統文化に裏付けられた遠州の小京都、あるいは自然景観こそが、他にはない森町らしさである。
- ・森町らしい、森町にしかないものを生かしていく、そういったまちづくりをすべきである。

町長マニフェスト

- 1 移住者、定住者に選ばれる「住みたいまち・住み続けたいまち」**
 - 移住定住を推進
 - 子育て、教育を充実
- 2 民間活力と連携した「活気あふれる産業と交流のまち」**
 - 産業を振興
 - 観光・交流を活性化
- 3 赤ちゃんから高齢者まで「だれにもやさしいまち」**
 - 安心・安全を確保
 - 自然環境を保護

第 10 次森町総合計画における視点

<視点>

- （１）人々の幸福度（ウェルビーイング）の考えを取り入れたまちづくり**
- （２）社会情勢の急速な変化に対応した持続可能なまちづくり**
 - ・出生数の向上や社会移動を増やす等、人口減少対策への取り組み
 - ・社会情勢の急速な変化に対応し、町民が心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりへの取組
- （３）森町らしさを生かしたまちづくり**
 - ・森町の特性や地域資源を生かし、まちの魅力をより一層高め、広げる取組
 - ・町民や森町に関わる人が、まちに愛着や誇りを持てるまちづくりへの取組（シビックプライドの醸成）
 - ・町民や民間事業者等と連携した、まちの活性化に向けた取組

(案)

令和8年 月 日

森町長 太田 康雄 様

森町総合計画審議会
会長 小泉 祐一郎

第10次森町総合計画「基本構想」について(答申)

令和8年2月5日付け森政第60号によって諮問のあった、第10次森町総合計画「基本構想」について、本審議会での審議結果を別添のとおりまとめましたので、下記の意見を付して答申します。

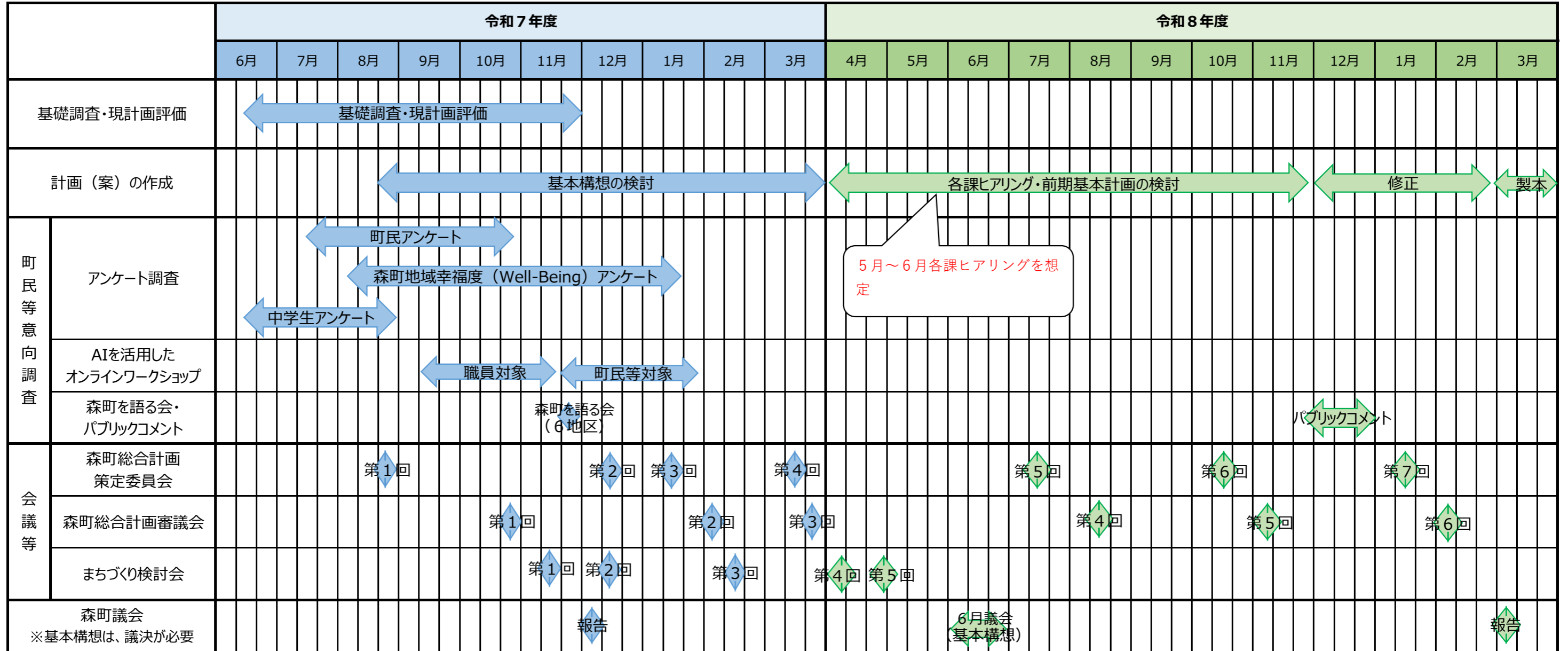
記

- 1 社会情勢の急速な変化に対応し、まちづくりの基本理念である「人・地域・時」のつながりを土台として、目指す将来像「つながりと愛着を持ち 共に創る森町」の実現に向けて取り組んでいくこと。
- 2 「ウェルビーイング（幸福度）」の考え方を町政運営に取り入れ、人口減少が進む中にあっても、町民一人ひとりが幸せを実感できる活力あるまちの創造に取り組んでいくこと。
- 3 計画の推進に当たっては、町民や多様な主体と共に取り組む「共創」に加え、自治体間で連携する「広域連携」や町の変革を進める「d X」の視点を大切にすること。

第 10 次森町総合計画「基本構想」 答申案（参考資料）

第 2 回森町総合計画審議会		答申案
委員	発言内容（抜粋）	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少にブレーキをかけたいと思うんですが、来るものは仕方がないので、施策としては、減少しても生きていける、減少しても成り立つ、そういった環境を整えることが大事になると思うんです。 ・森町の総合計画は、皆さんが幸せに生きていくことが目標。 	<p>1. 社会情勢の急速な変化に対応し、まちづくりの基本理念である「人・地域・時」のつながりを土台として、目指す将来像「つながりと愛着を持ち 共に創る森町」の実現に向けて取り組んでいくこと。</p> <p>2. 「ウェルビーイング（幸福度）」の考え方を町政運営に取り入れ、人口減少が進む中であっても、町民一人ひとりが幸せを実感できる活力あるまちの創造に取り組んでいただきたい。</p> <p>3. 計画の推進にあたっては、町民や多様な主体と共に取り組む「共創」に加え、自治体間で連携する「広域連携」や町の変革を進める「dX」の視点を大切にする事。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和策は、できるだけ人口を維持しようという努力も、確かにそれは必要ですが、まさに適応する、人口減少を前提とすると、今後、町のいろんなサービスも、どういう形であれば持続可能かということが重要だということですね。 	
委員	<p>（ウェルビーイングについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば所得とか幸せ、精神的なものがありますが、皆さん生活している中で、懐がちゃんと安定してなければ、そういった精神的なものも充実していかないと考えています。 ・実際の施策の中では、柱で言えば地域産業が元気なまち、基本の柱の4の中にいろいろ織り込まれてくるのかなと思いますが、実際の施策の中では、まち・ひと・しごと創生総合戦略がこれからの森町にとっては非常に重要と考えています。 	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル生活のところが森町は低くて、近隣自治体はそれに比べて高くなっています。 ・森町だけでやるということもそうですが、近隣自治体が、例えばそこが他に比べて高いのであれば一緒に連携してやるとか、そういうことをぜひお考えいただきたいと思いました。 ・将来像のところに、共に知恵を出し合いとか、共に手を取り合いという部分は、ある意味、広域でやるという観点をに入れていただきたいと思っています。 	

第10次森町総合計画策定スケジュール（案）



※町民等意向調査は、調査の企画、調査実施、結果とりまとめまでの期間を表しています。

【森町総合計画審議会の開催概要】

回数	開催時期	主な内容
第1回	令和7年 10月29日（水）	・次期総合計画策定について ・策定スケジュール（案）
第2回	令和8年 2月5日（木）	・各種調査結果報告（町民等意向調査、基礎調査等） ・現行計画の評価結果 ・総合計画策定（諮問） ・基本構想（骨子案） ・人口ビジョン（案）
第3回	令和8年 3月27日（金）	・基本構想（案） ・総合計画策定「基本構想」（答申案） ・令和8年度策定スケジュール（案）

回数	開催時期	主な審議内容
第4回	令和8年 8月頃	・基本計画（素案）
第5回	令和8年 11月頃	・総合計画（案） ・総合計画策定「基本計画」（答申案）
第6回	令和9年 2月頃	・パブリックコメント結果 ・総合計画（最終案）